

★つぎの文しよようを読んで、あとの問いに答えましよう。

月夜つきよに七人の子供こどもが歩いておりました。

大きい子供も小さい子供もまじっておりました。

月は、上から照てらしておりました。子供たちのかげは短みじく地べたにうつりました。

子供たちはじぶんじぶんのかげを見て、ずいぶん大頭で、足が短いなあと
思いました。

そこで、おかしくなって、わらい出す子もありました。あまりかっこうが
よくないので二、三歩走ってみる子もありました。

こんな月夜には、子供たちは何か夢ゆめみたいなきことをかんがえがちでありました。
子供たちは、夜のお祭まつりを見に行くところでした。

切り通しをのぼると、かすかな春の夜風にのって、ひゅうひやりやりや
と笛ふえの音が聞こえて来ました。

子供たちの足はしぜん2に早くなりました。
すると一人の子供3がおくれてしまいました。

「文六ぶんろくちゃん、早く来い」とほかの子供がよびました。

文六4ちゃんは月の光でも、やせっぽちで、色の白い、目玉の大きいこと
わかる子供です。できるだけいそいでみんなに追おいつこうとしました。

「んでも俺おれ、おっ母かちゃん5のげただもん」と、とうとう鼻をならしました。
なるほど細長い足の先には大きな、大人のげたがはかれています。

(新美南吉「狐きつね」による。一部いちぶしようりやく)

(注) 地べた…地めん 切り通し…山などを切りひらいて通した道

げた…木で作られたはきもの 鼻をならす…あまえた声を出す



① 線1「わらい出す子もありました」とありますが、なぜ、わらい出したのですか。つぎの□に当てはまることばを、それぞれ文中から書きぬきましましょう。

地べたにうつった自分の か げ

が、あまりにへんなかつこうで、

お か し く

なったから。

地べたにうつったものは何か、わらうのはどのようなときかを考えよう。

② 線2「子供たちの足はしぜんに早くになりました」から、子供たちのどのようなきもちがわかりますか。もっともふさわしいものを、ア〜ウからえらんで、記号に○をつけましよう。お祭の笛の音が聞こえてきたことで、(早くお祭を見たくなくて) ゆっくり歩いていられなくなっているのである。

ア 早くお祭を見たい。 イ 早く家に帰りたい。 ウ 早く笛をふきたい。

③ 線3「一人の子供がおくれてしまいました」とありますが、なぜ、文六ちゃんはおくれてしまったのですか。つぎの□に当てはまるように書きましよう。

自分の足の大きさに

合 っ て い な い (合わない)

大人のげたをはいていて、

歩きづらかったから。

大人(おっ母ちゃん)のげたは、自分の足には大きすぎて、うまく歩くことができなかったのである。

④ 線4「文六ちゃんは月の光でも、やせっぽちで、色の白い、目玉の大きいことわかる子供です」から、どのようなことがわかりますか。もっともふさわしいものを、ア〜ウからえらんで、記号に○をつけましよう。

ア 文六ちゃんは、体は小さいけれど、とてもものわかりのよい子供だということ。

イ 文六ちゃんのきれいな目が、月の光に照らされて、月よりも明るくかがやいていると
いうこと。
月の光くらいの明るさしかなくても、文六ちゃんのようにすがよくわかるということ。

⑤ 線5「『んでも俺、おっ母ちゃんのげただもん』と、とうとう鼻をならしました」
について、①、②に答えましよう。

① 文六ちゃんは、このことばをどのように言いましたか。ア〜エから一つえらんで、
記号に○をつけましよう。おくれてしまったのを、おっ母ちゃんのげたのせいにはしている。
ア じまんするように言った。 イ 言いわけするように言った。
ウ ばかにするように言った。 エ 泣きさげぶように言った。

② 「とうとう」をほかのことばにかえるとすると、どれが当てはまりますか。
ア〜エから一つえらんで、記号に○をつけましよう。
ア やっぱり イ またも ウ はじめて エ ついに

